Ciao チャオ

ドン・ボスコ海外青年ボランティアグループ 後援会だより

DECEMBER 2024　no. 70

＜　目　次　＞

☆　巻頭言　武井アントニオ神父　･･･　1

☆　夏の活動報告　青年たちの声　･･･　2

☆　活動報告　国内ボランティ活動について　･･･　12

☆　事務局より　･･･　14

巻頭言

「DBVG 国内外活動での学び」

武井アントニオ神父

主のご降誕と新年、おめでとうございます。主から恩人の皆さまに豊かなお恵みと良いお年をお迎えできますようお祈り申し上げます。

昨年と同様に、2024 年 8 月 25 日から 9 月 8 日の約二週間、DBVG の海外活動としてベトナム南部のタクバン・カウマへ行ってまいりました。今年の派遣メンバーは青年と引率者を含めて 10 名で、男子が 6 名、女子が 4 名でした。参加者全員がサレジオ会と関係のある人で、中高生時代に聖書学校のキャンプに参加した人や、サレジオ学校の卒業生もいました。

現地でのボランティア活動では、10 日間にわたり現地の青年や子どもたちと共に、寄宿舎の窓やドアのペンキ塗りや周囲の清掃を行いました。午前中は作業に従事し、午後には地域の子どもたちや青年たちとスポーツ交流をしました。2 年目となる今年、現地の方々から「外国人とはよく会うが、日本人はほとんど見たことがなく、新鮮な気持ちになった」との声がありました。

また、今年は DBVG の計画外で日本語教室を開くことができ、午後には教会で地域の子どもたちや青年たちに日本語を教えることができました。子どもたちは初めての言語を一生懸命に習得し、作業中にも日本語で挨拶をしてくれました。この交流は私たちの作業の疲れを癒すものとなりました。さらに、現地での子どもたちの入学式では、日本の文化を紹介し、踊りやゲーム、折り紙、日本の食事を提供する機会も設けました。一日の活動や交流が終わった後には、日本語の聖歌を通じて現地の方々と心を一つにし、ともにミサを捧げました。

今年の DBVG の派遣メンバーは全員が DBVG 初参加であり、ベトナムでの活動も初めてでした。派遣準備の段階から不安や緊張がありましたが、この二週間を通じて外国での活動を経験し、多くのことを学び、成長する機会を得ることができました。また、新しい文化に触れ、多様な価値観を理解し、チームワークの重要性を実感しました。この二週間、怪我や病気になることなく無事に過ごせたことに、神様への感謝の気持ちでいっぱいです。

最後に、あらためて恩人の皆さまに心より感謝申し上げます。皆さまのご協力がなければこの活動を維持することはできません。皆さまの寛大なご支援に対し、神さまが豊かな祝福とご褒美を与えてくださることを願っております。今後も、ベトナムのカマウで暮らす貧しい子どもたちのため、彼らの輝く瞳や笑顔を思いながら、夢と希望を持って、きれいな環境づくりを続けていきたいと思います。

2024年度　海外派遣

派遣先：ベトナム・南部メコンデルタ地方 カマウ省
（8月28日～9月11日）

＊＊有田　よし乃＊＊

DBVG 海外派遣でベトナムを訪問して、私が大学で国際教育協力を学ぶ意味を見出すことができました。フィリピンのスラム街を訪れて、国際協力の道に興味を持ってから 7 年、様々な知識を得る中で途上国支援を行う上での課題や国際協力を仕事にするということの難しさを知り、大学での学びに悶々としていました。そのような時に、今回初めて途上国の人々に働きかける機会に恵まれました。ベトナムでの経験や人々との出会いが、これからの私の成長を後押ししてくれるように思います。

まず、今回の海外派遣全体を通して、サレジオ会の家庭的な温かさがどれほど素敵なものかということを再確認できました。ホーチミンに到着後、神学院や管区長館、修練院などのベトナムのサレジオの施設を訪問すると、出会う全ての人が私を温かく受け入れてくださいました。特に、修練生との交流では遊ぶときは思いっきり遊んだり踊ったりして、祈るときは静かに祈る、夕食のときは色々な話をしながら楽しい時間を過ごすことができ、どの国であってもサレジオの温かい雰囲気は変わらないということを感じました。

カマウでも、タックバンカトリック教会の神父様をはじめ、信者さんたちや若者たちが、私たちを教会の一員として迎えてくださいました。また、教会では子どもたちがいつも楽しそうにスポーツをしたり歌ったりしており、それを神父様が優しく見守っている光景を見て、中高生の頃に日向学院の先生方が常に寄り添ってくださった日々を思い出しました。これらの経験を通して、私が国際協力に携わる方法として教育を選んだ理由は、途上国社会の発展や個人にとっての教育の重要性を感じたことや、教えることが好きだったということももちろんあるのですが、一番はこれまで私が受けてきた心に寄り添う教育を途上国の子どもたちにも届けたいという想いがあったからだということに気づくことができました。

また、カマウでの 10 日間は人との繋がりを強く意識し、一人ひとりと関わる限られた時間を大切にすることができた毎日でした。現地の若者たちとは、なかなかに高い言葉の壁を超えて心の底から繋がることができました。一緒にスポーツをしたり、作業をしたり、文化交流をしたり、ミサに与ったりすることを通して徐々に打ち解け合い、将来のことや悩みなどを話す時間も少しずつ持つことができたように思います。

また、DBVG メンバーの間でも作業をしながら様々な話をし、毎晩の分かち合いでは普段は深く考えないことに全員で真剣に向き合うことができました。一人ひとりとの会話や思い出を振り返ると、これまでの様々な人との出会いが無ければ、カマウの人々や DBVG メンバーとの繋がりはなかったということを切実に感じ、人との出会いが私を成長させてくれているということを強く実感します。

さらに、カマウでは今回のグループ全体の目標であった「ドン・ボスコの愛によるつながりを深める」ということを達成することができました。特に、教会が運営する小学校の子どもたちとは、2 日間という短い時間でしたが、ドン・ボスコの愛を受けた子どもたちという共通点を通して深く繋がることができました。入学式や授業で子どもたちが私に向けてくれた笑顔は、私が将来に向かっていくための新たな糧になると思います。

ベトナムでの 2 週間で途上国支援の厳しさを実感しましたが、その必要性も身をもって感じることができました。国際教育協力について学ぶ中で、資金面やハード面、制度面にばかり集中してしまい、日々様々なことを考えながらそこに暮らす人々の生活や気持ちに目を向けていなかったということにも気付きました。これからも、学びを進めていく途中で困難や迷いを抱えることは多くあると思いますが、ベトナムでの経験や出会いを忘れず、距離的には離れていてもカマウの人々を想い、心に寄り添いながら夢に向かって歩んでいこうと思います。

最後に、様々な企画をしてくださった武井神父様やフー神父様、堤さん、日本からお祈りくださった方々、私たちを温かく迎えてくださった管区長様をはじめとするサイゴンの皆さん、活動を支えてくださったダット神父様、マン神父様をはじめとするタックバンの方々に感謝いたします。

＊＊上山　桃華＊＊

ベトナムでの２週間は、初めての経験ばかりで日本で生活しているだけでは学べない事を多く学び、考える事のできた 2 週間でした。

私は今回、初めて海外でのボランティア活動に参加しました。また、ベトナムは初めて行く国でもあり、言葉も通じないため行く前は不安でいっぱいでした。しかし、ベトナムに着くと一緒に行ったメンバーや現地の方々の温かさを感じ、行く前に感じていた不安がなくなりました。

ボランティアの作業としては、職業訓練校の寮のペンキ塗りを行いました。午前中は作業をし、午後晴れている時は子供達とスポーツや日本語教室をして交流しました。作業をしていく中で、作業員の方々にやり方を教えて貰ったり、午後子供達と遊んでいる時に、私たちの活動はボランティアとして成り立っているのかという事を考えました。私たちがボランティアとして行く上で、現地の方々は私たちのため

に作業を割り振ってくれて教えてくれて、自分たちの作業の時間を削りながら一緒に活動をしてくれました。さらに、食事の準備や宿泊場所の提供など、私たちがボランティアとして活動する事で、同じくらい負担をかけているのではないかと感じる事が多々ありました。しかし、そのような事を考えている時に「いるだけでボランティアになる」という話を聞きました。私たちが作業をする事で現地の子供達が一緒に作業をしてくれたり、日本人がカマウという土地に来たというだけで現地の人々にとっては意味があるということでした。

私は、DBVG に参加する前は奉仕活動で行う事の結果に「ボランティア」という意味があると考えていました。しかし、活動を通してボランティアとはその過程にも意味がありその過程こそがボランティアなのではないかと考えるようになりました。作業の結果として、何かを作り出したり完成させる事は重要ですが、それを生み出す過程での人との関わりや行動をしたという事実が、思っていたよりもその場所に影響を与えるのかなと感じました。作業の成果としては、ペンキを塗り、寮を綺麗にしただけですが、現地の青年達と仲良くなり日本語を教えたり皆で作業やごみ拾いをしたという過程が思っていたよりもお互いに影響を与えることができて、私たちのボランティアになったのかなと思います。

また、ベトナムでは、ベトナム人の心の豊かさを感じました。現地の方々は、とても陽気で親しみやすく優しい人たちばかりで、初対面の私たちに対してとてもフレンドリーでした。言葉が上手く通じないながらも、感情や思いを直接素直に伝えてくれるため、すぐに距離が縮まりました。偏見を持たずに受け入れてくれるベトナムの方々は心が豊かなのだなと思いました。私は初対面の人と会う時に壁を作ってしまいがちなので、もっと心の豊かな人間になって、人と関われるようになりたいです。

そして、今回の活動を通して、もっと色々な国へ行き世界を見てみたいと思いました。今回ベトナムでは沢山の人との出会いがありました。この、人との出会いが自分を成長させてくれました。これからは、今回の活動で学んだことを活かし、視野を広げ、更に多くの事を経験していく中で人として成長していきたいです。

＊＊乗峯　みずき＊＊

今回の DBVG ベトナム派遣での目標は「ドン・ボスコの愛によるつながりを深め、知る、成長する。」でした。この目標は、事前合宿で今回の派遣メンバーで意見を出し合い決めました。私は、2 週間のベトナムでの活動を通して、この目標を達成できたと思います。

まず、「ドン・ボスコの愛によるつながりを深め」という部分では、2 週間の活動を通して現地でさまざまな人に出会うことができました。特に、カマウでは約 10 日間という短い時間で、現地の子どもたちやカマウでの生活をサポートしてくれていた人たち、タックバン教会の神父様などたくさんの方々と出会い、とても深い関係性を築くことができました。英語があまり通じず、言葉でのコミュニケーションをとることは難しかったですが、表情や歌など、言葉が通じなくても分かり合えることがたくさんありました。本当に温かい人たちと出会い良い関係性を築くことができたのに、たった 10 日間で終わってしまうのが本当に寂しく、もったいないと感じました。どこへ行ってもベトナムの人たちは、本当に温かく私たちを迎え入れてくれ、ベトナムでの 2 週間の活動で、日本で普通に生活しているだけでは感じることのない人の温かさというものに触れることができました。

さらにベトナムでの活動の中だけでなく、日本でも DBVG を通して多くの方々と出会うことができたことをとてもうれしく思います。一緒にベトナムに行ったメンバーや OB、OG の方々など DBVG に参加していないと出会うことができなかった人たちと関わりを持つことができました。これらすべての出会いは「ドン・ボスコの愛によるつながり」のおかげだと感じます。私は、今回の DBVG にはドン・ボスコの愛によるつながりによって参加することができ、さらに DBVG の活動を通して日本や遠く離れたベトナムでの出会いによってこの「ドン・ボスコの愛によるつながり」を深められたことは本当に貴重であると感じ、感謝したいと思います。今回の活動で築くことができた貴重なつながりを、さらに深く広くできるように今後も積極的に DBVG の活動に参加していきたいと思いました。

「知る」という点では、実際にボランティアを行ったカマウという場所の現状を知ることができました。私たちはボランティア活動で、カマウの教会の中にある寮のペンキ塗りの作業をしました。しかしながら、実際そこで生活をして感じたことは、ペンキ塗りという作業だけでは現地の人たちの生活を大きく豊かにすることはできないということです。現地には、もっと支援しなければならない場所があって、それには長期間の支援が必要だと感じました。このことは、実際に現地で生活をして自分の目で見ないと、どんな支援が必要かわからないと思います。自分で足を運んで、体験するということは大切なことだということを知ることができました。

「成長する」という点では、この 2 週間の活動を通して自分で一番成長したと感じるのは、考え方が変わったことです。私は、知らない場所に行くことや知らない人と関わることが苦手で、自分の知っているところで過ごすことや知っている人とだけ関わればそれでいいという考え方を持っていました。しかし、2 週間ベトナムという遠く離れた自分が知らない場所で、たくさんの人たちと出会いながら生活することはとても楽しいということに気づきました。もちろん、2 週間を通して楽しいだけでなく大変なこともたくさんありましたが、一緒に行ったメンバーに助けられ、支え合うことができました。振り返ってみると、大変だったことも本当に良い思い出で貴重な経験になりました。この経験を通して、これからも自分の知らない世界に飛び込んでさまざまなことに積極的に挑戦していきたいと考えられるようになりました。今回の DBVG のベトナムでの活動に参加することができ本当に良かったです。

＊＊四倉　夏＊＊

私はベトナムに行って、サレジオ会についてより深く知り合えたと感じました。というのも、今回の派遣の目標は「ドン・ボスコの愛によるつながりを深め、知る、成長する。」といった、少々大きすぎるというか、何でも食べたがる腕白坊主のような目標でした。

しかし、私にとって今回の派遣はこの目標というものを強く意識して日々を過ごしていました。ドン・ボスコの愛（bontà）についても全くと言っていいほど知りませんでしたし、何を知って、どういう成長を遂げるのかが、一日を振り返ると必ず思い浮かんできました。

最初にこのことについて考えさせられたのはベトナムへと出発する前、調布で直前合宿をしていた時です。その時に神父様や神学生の方から教えてもらったことが、「奉仕する心を忘れるな」といったことでした。これは、私にとってかなり難しいものでした。私はボランティアをするのが初めてでしたし、行うことが必ずしも相手のためにならず、ともすれば自己満足に終わることだってあるでしょう。それは奉仕の心と言えるのでしょうか。考えれば考えるほど、この言葉が難しく感じました。また、私を困惑させたのが、現地で神父様がおっしゃった「いるだけでボランティアになる」というものです。どう考えても直前合宿の「奉仕の心」とは違ってきます。そのようなもやもやを抱えつつ、ベトナムでせめて漠然とだけでも「奉仕の心」についてつかんで帰りたいと考えるようになりました。

現地カマウ省タックバン教会での１日の過ごし方は、朝ご飯の後、ボランティアの作業を行い、お昼ご飯を食べ、午後は作業を続けたり、教会にやってくる子どもたちと一緒に遊んだりした後、ミサを受け、夜は持ち回りでご飯を作り、それをいただいて一日を振り返り、就寝という流れでした。その中で特にベトナムの人々について印象的だったことは、この教会の信者の方はあまり多いほうではなく、その中で割合が多かったのは子どもたちでした。しかし、この教会にやってくる子どもたちは必ずしも信者というわけではなく、中にあるしっかりとしたサッカー場へと遊びに来る地元の子どもたちもいました。メインで関わっていた子どもたちは信者で、毎日ミサにもやってくるような子どもたちでしたが、日本人の物珍しさからか、サッカーをしていた小さな子どもたちとも関わることができました。

また、毎日朝早くからご飯を作りに来てくれる夫妻も、挨拶をすると必ず笑顔で返事をしてくれましたし、なにも言わなくても陰ながらいろんなことに手を回してくれました。現地には差し入れを持ってきてくださる人もいて、毎日のように持ってきてくださった方は差し入れを置いてすぐ帰ってしまうので、なかなか感謝を伝えられませんでした。また、現地の神父様は晩御飯に地元の名産品を買ってきてくださり、お互いに敬意ともてなしの心があったと思います。

そんな人々に囲まれて過ごす日々の中で感じたのは、当たり前のことですが、私たちがいなければこのような空間は生まれていないのだということです。というのも、現地の人からすれば日本人が来ているからこんなことをしてあげようという気持ちが、遠回しに他の現地の人々に少し分けられ、そんなことの連続で、私たちグループと現地の人々はとてもお互いに分け合う気持ちの良い空間の中にいて、そんな空間の中心に私たちは入れたのではないかということです。それは神父様がおっしゃった「いるだけでボランティア」のようだと感じました。しかし、忘れてはいけないものがあります。それはお互いに受け入れ、分け与えなければいけないということです。そんなことを「奉仕の心」というのかもしれないと感じ、最初に疑問に思ったことについて少し腑に落ちたように思います。

まとめると、私は「奉仕の心」について少し知ることができ、bontà についても少し意識できた気がしました。突き詰めればサレジオ会がこの派遣の中心にあるからです。この派遣で私とサレジオ会もお互いに分け与えあえたと思います。（もっとも、私がもらったものが大きすぎますが）私がどんな成長ができたかは長い目で確かめていきたいです。最後になりますが、このような日々を過ごせたのもご支援していただいた皆さん、そしてサレジオ会のおかげです。ありがとうございます。

＊＊島埜内日奈子＊＊

まず、今回のベトナム派遣に関わった全ての方々に感謝したいと思います。今回のベトナム派遣を通して、文化の違いを知り、視野を広げ、世界に目を向けることができました。また、自分の良い点、悪い点を見つけることができ、成長に繋がったと思います。「ドン・ボスコの愛によるつながりを深め、知る、成長する。」という今年のベトナム派遣の目標も達成できたのではないかと思います。

ベトナムのカトリック教会を体験して、まず日本とは全く異なる曲調のミサ曲に驚きました。また、教会に来る子どもたちの数は日本よりも多いですが、全体としては教会に来る人が少ないことが意外でした。日本人として、ミサの中で毎回拝領の歌を歌わせていただいたことも良い思い出になりました。

文化の面では市場に売られているもの、ヘビやカエルやネズミを食べたたこと、スコールなどの天候など、日本ではできない体験がたくさんできました。そして、お互いに伝統衣装(アオザイ、浴衣・甚平)を着たり、歌やダンスなどの出し物を披露したり、たくさんの文化の違いを経験することができました。

8 月 28～30 日、9 月 2～3 日は、寮生の住む建物のペンキ塗りをしました。ペンキがはみ出ないように細かい部分を塗るという、集中力のいる作業でした。5 日間という短い期間で、個人的にはもっと頑張れたのではないかという心残りや後悔があります。

作業以外には、カマウで出会った子どもたちとの交流が印象に残っています。これまで私は小さい子どもとの接し方が分からず、子どもと関わることが苦手でした。だからこそ積極的に関わって苦手をなくすことも目標にしていました。今回、小学校の入学式や授業に参加し、小学生との交流の中で積極的にコミュニケーションをとることで彼らとの関わりを深めていき、少しは克服することができたと思います。また、中学生や高校生との交流も多く、夜遅くまで外で私たちを待っていてくれたり、言葉が通じなくても翻訳機を使ったり身振り手振りで一生懸命伝えようとしてくれたり、私たちと積極的に関わろうとしてくれたことに感動しました。アニメソングや日本の歌を一緒に歌い、音楽でつながることもできました。子どもたちはみんな日本語を練習して積極的に話してくれる一方で、私はベトナム語を覚えて話すことができなかったので申し訳なかったです。次こそは少しでも会話ができるよう、ベトナム語を頑張って勉強したいと思います。子どもたちとは遊ぶだけでなく、長い時間にわたって話すこともあり、深い内容を話していくにつれ、普段は明るくて笑顔が溢れる子でも、その裏には努力や苦労、強さがあることが分かり、自分もこの子たちのよ

うに強くなりたいと思いました。私たちがタックバンを離れた今、彼らは日常に戻るだけかもしれませんが、神父様方や子どもたちがどうしているかが気になってしまいます。子どもたちと交わした約束を果たすためにもまたDBVGに参加したい上に、個人的にもベトナムを訪れたいです。

ベトナム滞在中は、カマウでの子どもたちとの交流だけでなく、ホーチミンでの修練生との交流など、全ての活動においてドン・ボスコの愛によるつながりを感じることができました。このつながりを大切にしたいと思います。DBVG メンバーとの 2 週間の共同生活でも、相互理解の大切さや思いやりを学ぶことができました。

ベトナムにいると、普段、日本で整備された建物や道路を使えること、水道の蛇口やシャワーからお湯が出ること、水道水が飲めること、学校に通っていることなど、どれほど安全で恵まれた環境で毎日を過ごすことができているのかを身に沁みて感じました。これまでは当たり前だと思っていたことが当たり前ではないことに気がつき、これまで以上に今の生活に感謝して過ごしていきたいと思いました。

派遣前、私は自分の将来についてこれまでずっと迷っていました。ベトナム派遣を通して、本当に自分がしたいことが何なのか、それは自分だけでなく他人の幸せにもなるのか、など色々なことを考えることができ、自分なりの答えに辿り着けた気がしました。今回の活動は時間的には人生のほんの一部に過ぎませんが、非常に大きな出来事になったと思っています。個人的な目標にしていた「自分が何かを得るだけでなく、それ以上にたくさんの人に何かを与えられるようになる」という目標は達成できたか分かりませんが、今後もこのことを念頭に置きながら自分にできることを模索し、大きなことはできなくても小さなことから取り組みたいと思っています。

今回のベトナム派遣を通してたくさんの笑顔を見ることができました。「地球に笑顔が満ちるまで　Until Smiles Fill The Earth!」という DBVG のスローガンの下、また分かち合いの中で武井神父様がおっしゃっていた「いるだけでボランティア」という言葉を今後も思い返しながら活動していきたいと思います。

今回の活動が安全で実りあるものになったことや無事に終えたことに神様に感謝します。そして、いつも DBVG のために支援してくださり、応援してくださる恩人方、DBVG メンバー、現地の方々や子どもたち、全ての方々との出会いや恵みに感謝いたします。本当にありがとうございました。今後も DBVG のため、ベトナムで出会った方々のためにお祈りいたします。

＊＊関根　悠介＊＊

私は今回のDBVGの活動で、自身について深く考え、成長を感じることができました。私にとって今回の活動は初めての海外経験であり、また、約２週間という期間ではあるものの、初めての長期共同生活でした。様々な考え方を持ったメンバーと一緒に活動したあの時間は新しいことの連続であり、生活の中で彼らと意見を共有する度に、視界が開けていくような感覚を持ちました。そして、その日のミサや分かち合いで考えを整理し、新たな自分への成長に繋げることができました。特に変わったと感じる部分は、他者への感謝、そして祈りについてです。

私はこれまで、感謝というものを無意識に軽視してしまっていました。例えば、物を頂いた際の「ありがとうございます」。私は今までこれを反射で言っていたと思います。なぜ感謝しているのか、なぜありがたいと思うのか、そんなことは考えたこともありませんでした。ですが振り返ってみれば、たくさんの繋がりを辿って私は今回の活動に参加しているのだと、現地での生活を通して気づきました。まず、この活動に参加できたきっかけは、私が通っていたサレジオ中学校の同級生の友達が、DBVG の存在を知らせてくれたことです。そして、なんの迷いもなく私を送り出してくれた両親や、急に参加が決まった私を快く受け入れてくれたメンバーの方々、現地で私たちと関わったすべての方々がいてくれたからこそ、私はこんなにも素敵な経験をできたのだと理解しました。小さなひとつの繋がりが、他の繋がりを手繰り寄せてここまで私を導いてくれたのだと考えると、私たちの私生活は本当に数えきれないほどの繋がりの中で成り立っていると実感します。そしてその繋がりを経て自身に何かが与えられたとき、私たちはそれに感謝をするのだと気づくことができました。生きているだけで多くの人が私を支えてくれているのだということを、この活動を通して理解することができました。

そしてもうひとつ、祈りについてです。以前は祈る際、神様やマリア様に対して祈るといっても、ただ自身の祈りを捧げるだけという感覚でした。ですが、帰ってきてからの祈りでは、どこ、あるいは誰に対してかはわかりませんが、繋がりを感じるのです。真っ直ぐにどこかへ祈りが届いているような、そんな感覚を覚えるようになりました。大切な人への感謝や幸せを願う祈りが、誰かに受け止めてもらえているようなこの感覚は、以前は感じることができませんでした。どうしてこれを感じることができるようになったかはわからないのですが、他者への感謝と同様に、繋がりによって与えられた本当に大切なものであると感じています。

このように私は、私たちが今回立てた目標である「ドン・ボスコの愛によるつながりを深め、知る、成長する」を、活動を通して自分なりに実践できたのではないかと思います。また、上記のこと以外にもたくさんの気づきを得たり、自身の至らぬ部分を見つけたりすることができました。これからの生活の中で、全てのことについて当たり前だと思い込まず、感謝を忘れず、大切な人たちを信じて生きていけたらと思います。

＊＊堤　崚作＊＊

今年の夏も昨年に続いて海外ボランティアに参加させていただきました。昨年は社会人の参加が多かったのですが、今回のメンバーは全員大学生ということで昨年とは違った雰囲気の活動となりました。

今回の活動はペンキ塗りなどの作業と現地の子どもたちとの文化交流が中心でした。宿泊・活動させていただいたのはサレジオ会が担当する小教区なのですが、そこには隣接する建物を使って公立の学校に通えない貧しい子どもたちの小学校もあります。また、遠いところの出身で通学が困難な高校生のための寮もあり、今回の私たちの作業はこの寮の建物のペンキ塗りでした。私を含めたメンバーのほとんどが初めてペンキ塗りをすることもあり、はじめは思うように作業を進められませんでしたが、毎日の作業でどんどん上手くなっていきました。

昨年は悪天候のためスポーツ交流をすることができなかったのですが、今年は毎日、教会に集まる子どもたちとスポーツをしたり、日本語教室を開いて簡単な日本語を教えたりすることができました。ここには教会の子どもだけでなく、町では不良少年と呼ばれるような青年たちもグラウンドを使うために集まり、毎日サッカーを楽しみます。身体にはタトゥーが入り、髪色は鮮やかな青年たちがサレジオ会員とサッカーをする光景はまさにドン・ボスコのオラトリオでした。

昨年と同じ場所での 2 週間の活動でしたが、昨年との違いをたくさん見ることができました。一番は現地の人々、特に教会の信者の方々が私たちを受け入れてくださっていると感じたことです。作業中には毎日誰かがお菓子や飲み物を差し入れしてくださり、私たちとの交流を求めて教会に集まる子どもたちの数がかなり増えていました。「今年もわざわざ来てくれてありがとう」と何度も言われ、心から感謝してくださっている姿を見て、昨年の活動が意味のあるものだったと実感しました。今回の私たちの活動は本当に小さなもので、どれだけ現地の方々のために奉仕できたかは分かりませんが、昨年同様、少しずつ繋がりをつくり、お互いに影響を及ぼすことができたのではないかと信じています。今回も強めた繋がりをこれからも大きくしそれぞれの場で実らせていければと思います。

地球に笑顔が満ちるまで！

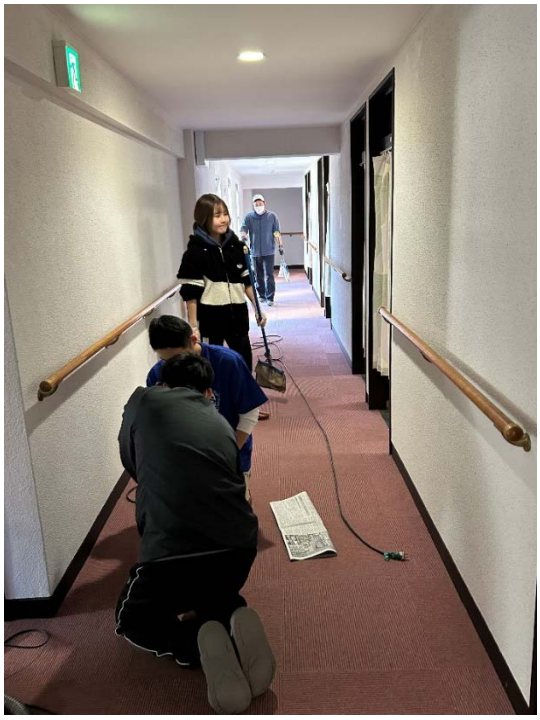
＜活動報告＞

この１年間の国内での活動報告です。写真と共にご覧ください！

【11 月活動：修道院の清掃活動】

11 月 23 日、私たちは東京都調布市にある汚れなきマリア修道会の修道院へボランティアに行きました。今回のボランティアの主な内容は、修道院の清掃です。シスター方の温かい歓迎を受け、懐かしい気持ちになりました。実は、この修道院での DBVG の活動は今回が 2 回目なのです。私たちは一年前にもこの修道院で清掃活動を行いました。そして今年も再び、修道院の清掃をすることとなったのです。

今回清掃する建物は、去年と同様、修道院内にある学生寮です。この修道院にはシスター方が生活されている建物とは別に学生寮があり、その施設が驚くほど広いのです。4 階建ての学生寮には、各階にベッドと勉強机が備わるシングルルームがずらりと並んでいました。そのほかにトイレや大部屋、洗濯干し場などもありました。この広大な建物は現在使われておらず、シスター方はその清掃に手が回らない状況でした。そこで私たち DBVG が派遣され、清掃を行う運びとなったのです。



清掃作業を始めると、すぐに違和感に気づきました。昨年の清掃活動を思い出しながら部屋に入りましたが、修道院の部屋が去年に比べて明らかにきれいになっていたのです。おそらく、去年の DBVG のメンバーが一生懸命掃除した成果が 1 年経っても残っていたのでしょう。私はそのお部屋を見て、「去年頑張って掃除してよかったな」と感じました。

午前中は、部屋が多い 2 階と 3 階を中心に清掃を進めました。掃除機をかけ、窓を雑巾で拭くという単純な作業でしたが、部屋数が多かったため午前中いっぱいかかりました。お昼にはシスター方が作ったカレーでお腹を満たし、午後も引き続き作業を進めました。作業中、私は掃除機で秋の虫を誤って吸い取ってしまい、部屋中に香ばしい香りが充満するというアクシデントもありましたが、それも一つの思い出としてここに書き残そうと思います。

作業をしながら、この建物がどのように活用されるべきかを考えていました。学生たちがここで楽しく過ごす姿を想像したりしました。そんな思いを胸に、午後の作業を終え、全ての部屋を掃除することができました。

清掃後は、ボランティア活動の恵みに感謝し、ミサを捧げました。その後、シスター方が用意してくださったおやつをいただき、みんなで団欒のひとときを楽しみました。シスター方が喜んでくださる姿を見て、今日のボランティアに参加して本当に良かったと心から感じました。

　このボランティア活動を通して、私は「みんなでボランティアをすることの大切さ」を再認識しました。今回集まった十数人のメンバーは、それぞれ自分の役割をしっかりと把握し、協力し合いながら作業を進めていました。そのため、効率よく作業を終わらせることができました。一人では限界があるけれど、みんなで協力することで作業の効率は何倍にも膨らむということを学びました。また、作業中に仲間といろんな話をすることができ、コミュニケーションを深めることができました。このようにボランティアを通じて一体感を高めたり、仲間の経験を共有したりすることができるので、みんなでボランティアをすることは非常に大切だと思います。

　今回のボランティアは、県外や海外での大規模な活動ではなく、市内の修道院での清掃でした。ボランティア自体は小さなものでしたが、汚れなきマリア修道会のシスター方のお役に立てたことは、大きな成果だったと感じています。私たちのボランティア活動が、イエス様のパン種のように社会にとって大きな糧となるよう、これからも尽力していきたいと思います。

《 事務局より 》

今年もあと残すところ僅かとなりました。
今年の夏、7名の青年が昨年と同じベトナム・カマウに派遣され、無事にボランティア活動を　行うことができました。参加した青年たちは、それぞれが体験したことを、来年の夏に派遣される青年たちに対して、国内でのボランティア活動や分かち合いの場を通じて引き継いでくれる　ことでしょう。
主のお恵みと、DBVG 参加者たちの活躍を共にお祈りいただけますよう、今後ともご支援の程、よろしくお願い致します。

Don Bosco Volunteer Group

DBVG

Ciao チャオ

〒 160-0011　東京都新宿区若葉 1-22-12
サレジオ日本管区長館内
TEL：03-3353-8355　Fax：03-3353-7190
Mail：sdbdbvg@gmail.com

ホームページ
http://www.oratorio.tokyo/dbvg (新)

http://www.donboscojp.org/sdbdbvg

facebook
https://www.facebook.com/DBVGJapan

振替口座番号　00150-1-553622
ドン・ボスコ海外青年ボランティアグループ